

## 「やさしい日本語」による公的文書の書き換えの諸相 —書き換え困難語彙の抽出を中心に—

渡辺 藍

### 要旨

現在、「やさしい日本語」を使った公的文書の書き換えが進んでいるが、語彙に関しては明確な書き換え基準はない。本研究では、実際に外国人向けの公的文書の作成・書き換えの際に、複数の日本語教師が、書き換えが困難と感じた語彙500を抽出し、どのような理由で困難かという観点から考察を行い、その理由を大分類と細分類にまとめた。また、日本語教師と大学生が、これらの分類をもとに語彙を選別したところ、大分類での2人以上での一致率は、日本語教師で7割程度、大学生でも6割を超え、分類が比較的妥当なものだと述べる事ができた。細分類の2人以上の一致率は、日本語教師では4割を超えたが、大学生では2割5分程度にとどまり、判断に揺れが生じたことが窺えた。一方でどちらの分類においても、日本語教師は大学生と比較して、5～15%程度一致率は高く、日本語教師は書き換えが困難と感じる語彙への意識が比較的近く、難しい言葉の言い換えに慣れていることが分かった。

キーワード：やさしい日本語、多文化共生

### 0 はじめに

現在、外国人住民の多様化、定住化に伴い、「やさしい日本語」を使った公的文書の書き換えが進んでいる。しかし、明確な書き換え基準がないことから、書き換え作業者の負担は大きい。そして、同じような文書でも作業者の直感が大きく影響し、書き換えには大きなばらつきが見られる。書き換えの基準は、作業者の判断で大きく変わり、一方で作業者の判断だけでは決めることができずに、自治体の公的文書の作成者や窓口の担当者と話し合わないと方針が決まらないものも多く、一概に基準を策定できないという事情もある。しかし、あらかじめ、作業者が書き換えの課程で書き換えが困難と感じた語彙について、書き換えの方針が決まっていれば、作業者の負担は軽減でき、公的文書の書き換えの方針を行政側と検討する際のたたき台になることも考えられる。これらのいわゆる書き換え難語の検討は、「やさしい日本語」による公的文書基本語彙の策定にもつながるだろう。

### 1 先行研究

「やさしい日本語」の書き換えの基準としては、地域型初級レベルの文法項目として、庵(2009, 2010)が提案する、Step1、Step2 からなる「ミニマムの文法」が書き換え基準としてある。一方で、語彙に関する書き換え基準はなく、庵ら(2011)では被覆率80%の達成を考えると、「公的文書の書き換えにあたっては、せめて、6,000語(日本語能力試験

2 級) ないし、10,000 語 (日本語能力試験 1 級) のレベルで書き換えを行うべきであると述べるに留まっている。その結果、現在の語彙の「やさしくわかりやすく」という書き換えの意識だけでは判断ができない語彙も多く存在し、書き換え作業者の判断というよりは、自治体の公的文書作成者や外国人住民との対応にあたる窓口担当者に委ねられるものも多い。

## 2 書き換えが困難な語彙の抽出・検討

### 2.1 書き換えが困難な語彙の抽出方法

書き換えが困難な語彙の抽出に関しては、実際に、外国人住民向けに作成、または書き換えられた公的文書 3 つのデータを用い、複数の日本語教師が、書き換えが困難と感じた語彙 500 を選び出した。また、それらをどのような理由で書き換えが困難なのか、その理由をまとめた。

### 2.2 書き換えに使用するデータ

書き換えに使用するデータは 3 つで、N 区の外国人住民向け防災ハンドブック、T 県の外国人と日本人のモデル会話集、Y 市の生活情報であり、全体の分量としては、Y 市の生活情報が大半を占める。N 区の外国人住民向け防災ハンドブックは、震災に特化した情報を掲載しており、配布後は冊子を使った勉強会を行い、説明を加える予定で、イラストを多く採用し、難しいと思われる語彙でも耳にする機会が多いものはそのまま用いている。T 県の外国人と日本人のモデル会話集は、「やさしい日本語」が、ほとんどの場合、外国人に対しての情報提供として紹介される場所、日本人に対して「やさしい日本語」を身近に感じ、外国人との接触場面で使ってもらうことを目標にしており、生活の中でよく遭遇する場面を設定している。また、3 つ目の Y 市の生活情報はもともと日本人向けに書かれたもので、それを外国人向けに作成するための語彙の書き換えであった。内容は、生活や Y 市役所の手続きに用いる幅広い項目に渡り、そのデータ総文字数は 690,598 字になる。

語彙の書き換え基準は、T 県の会話集は日本語能力試験旧 4 級 (一部旧 3 級) を目安に、N 区の防災ハンドブックと Y 市の生活情報は、日本語能力試験旧 3 級 (一部旧 2 級) を目安にしている。

### 2.3 語彙の書き換えが困難と感じた理由についての分類

前記の 3 つの文書の作成・書き換えの際、複数の日本語教師が書き換えが困難と感じた語彙 500 について、その理由を分類した。具体的には、大きく分けて以下の 5 項目に分類される。以下、この分類を大分類と呼ぶ。

1. ものの名称 (固有名詞)、専門用語
2. 書き換え後に印象が変わったり問題があったりするため、行政の判断が必要
3. 説明の方法で、行政の判断が必要
4. 個人の判断でどう書き換えたらいいか、悩む

- 4-1 覚えたほうがいいのか、悩む
- 4-2 どうやって書き換えたらいいか、悩む

5. 書き換えられる

また、各項目の細かい分類は下記の13項目になる。以下、この分類を細分類と呼ぶ。

- 1. ものの名称（固有名詞）、専門用語
  - 1-1 ものの名称（固有名詞）、専門用語  
団体、職業、病気、体、病気、薬、法律、事業、制度、災害、保険・年金関係、書類、製品の名前、インターネット、原子力、病気の症状等専門分野に関するもの  
(例：厚生省、保健所、看護師、ぼうこう、医療法、津波、3R活動、健康保険、予定納税、登記簿、下痢、ウィルス、塩素、算数、ラップ、リンク、セシウム)
  - 2. 書き換え後に印象が変わったり問題があったりするため、行政の判断が必要
    - 2-1 誰を中心に考えるか、悩む（交付、給付、受給、診察、出産）
    - 2-2 差別的・問題がある表現が含まれる可能性がある  
(障害者、母子家庭、動物愛護センター、精神科、認知症)
    - 2-3 印象・正確さが変わる  
(意志、同意書、機密情報、虐待、市職員、世帯、減免、助成)
  - 3. 説明の方法で、行政の判断が必要
    - 3-1 長い説明が必要か  
(償還金、人工呼吸、中間処理施設、罰金以上、準用、防災拠点、震度6強)
    - 3-2 例をどうするか（どこまで例をあげればいいのか）（数日、地方自治体）
    - 3-3 直接的な表現を避けたい（排泄物、性、精液）
  - 4. 個人の判断でどう書き換えたらいいか、悩む
    - 4-1 定義が曖昧、抽象的（あり方、絆、自立支援、最低生活費、モデル事業）
    - 4-2 文脈による（処分、媒介、融通）
    - 4-3 背景知識が必要（日本の生活習慣や文化などを知らないと難しい）  
(給食、防災訓練、安否情報検索、帰宅困難者一時滞在施設)
    - 4-4 覚えた方がいい（洪水、体制、設備、申請、検査、暗証番号、サービス）
    - 4-5 書き換えるかどうか（覚えた方がいいか）悩む（非常、対策、手数料）
    - 4-6 その語彙自体難しいが、他の語彙に直せない・書き換えても難しい  
(投票、知事、個人、浸かる、リフレッシュ、～ごと)
  - 5. 書き換えられる（当事者、治療、恐れ、マニュアル）
- その他 似たような意味の語彙の説明をどこまでするか、迷う  
(世帯／家族、所得／収入、保育所／認定保育園／認可保育所／認定こども園)

表1 書き換え（大分類）  
分類チェック手順

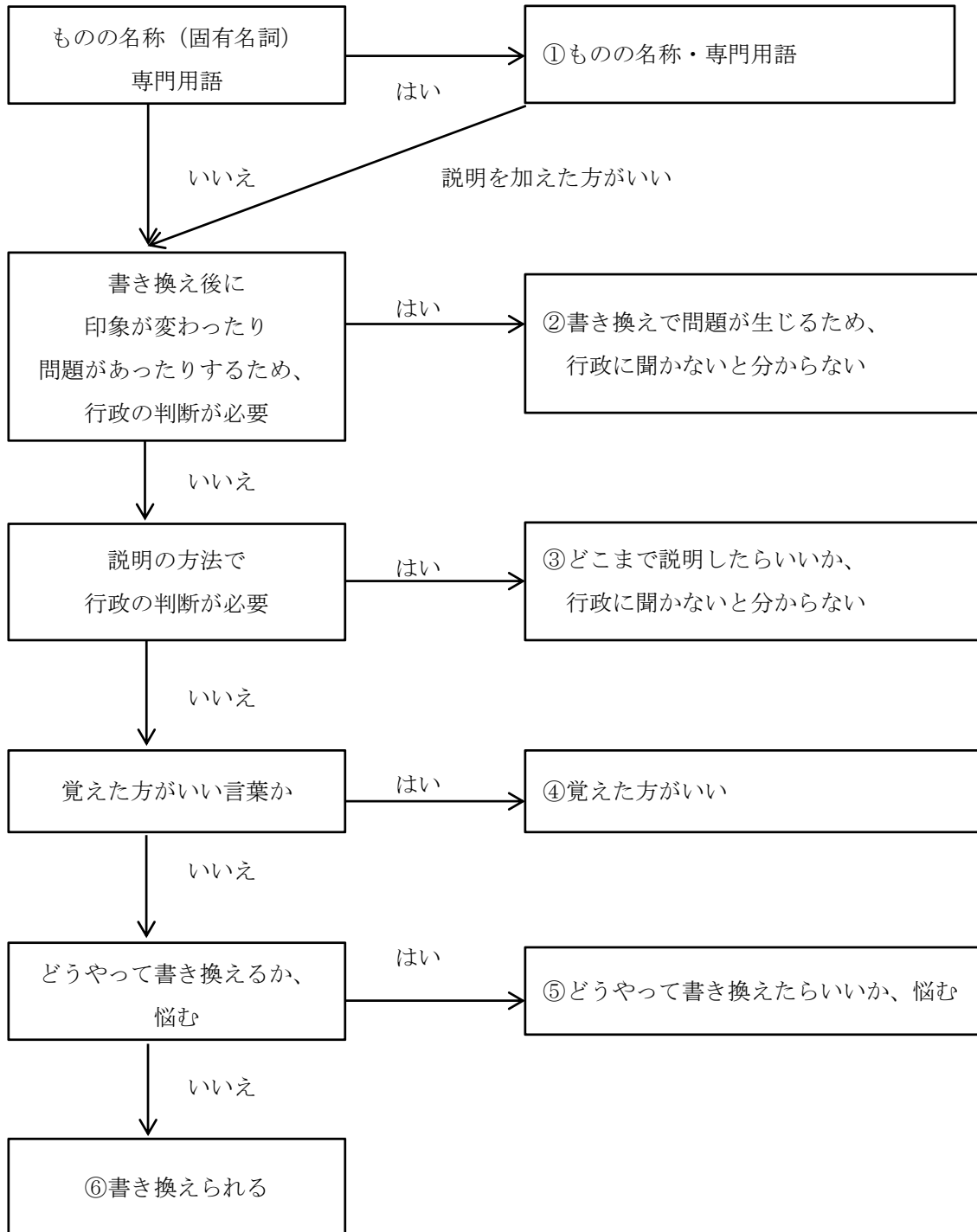
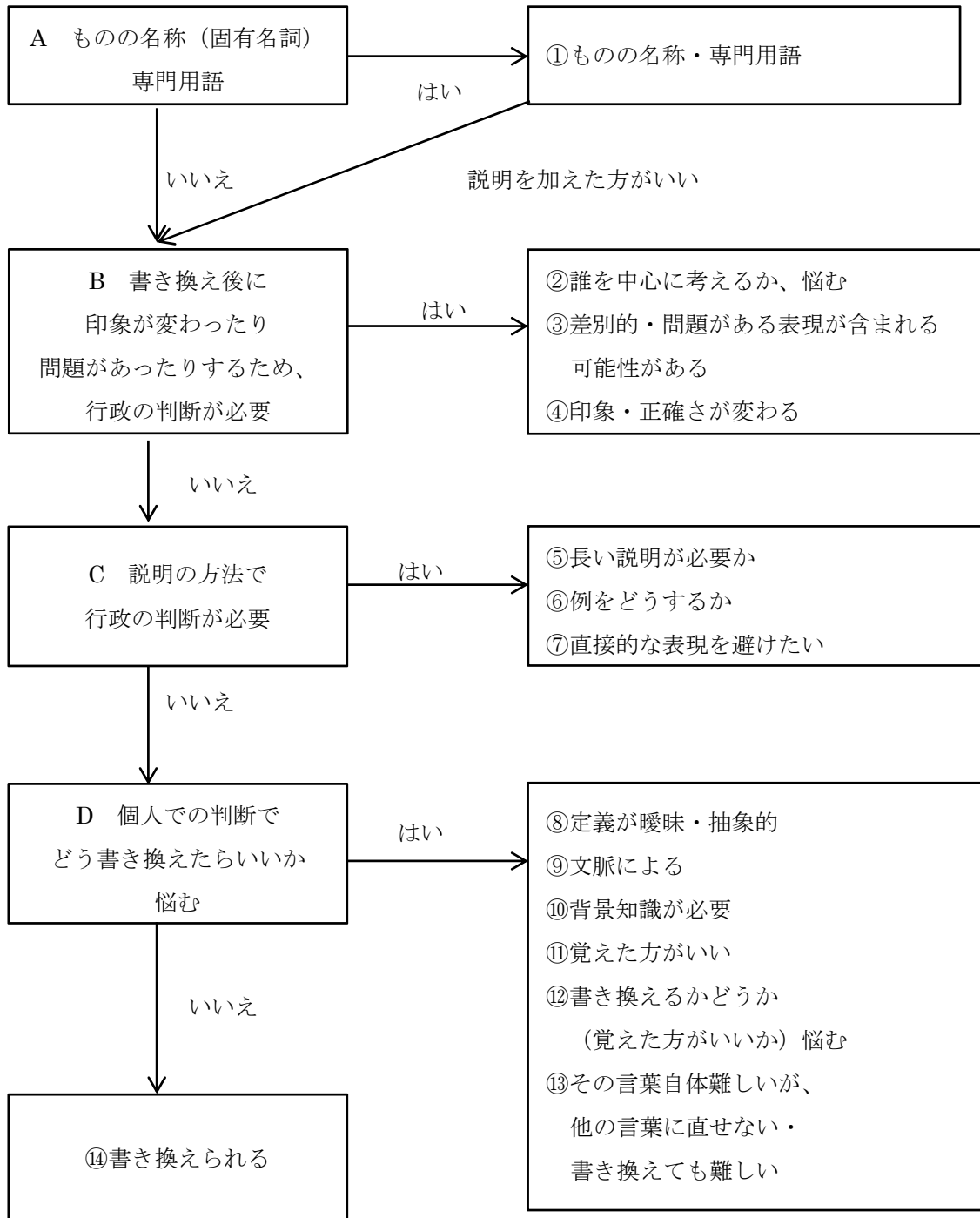


表2 書き換えチャート（細分類）

分類チェック手順



### 3 書き換えが困難な語彙の分類について

#### 3.1 調査目的

書き換えが困難な語彙 500 を抽出し、その語彙を書き換え困難な理由について分類を行ったが、この分類はあくまで筆者によるものであり、これらの分類が妥当なものかという点には疑問が残る。そのため、実際に日本語教師と大学生を対象にし、同様の分類になるか、別の理由に分類される語彙があれば、どのような理由にあてはまるか、調査を行った。

#### 3.2 調査方法

被験者は日本語教師 6 人、大学生 6 人である。前記の大分類と細分類に従い、それぞれ日本語教師 3 人、大学生 3 人に分かれ、分類を行った。日本語教師と大学生を対象に調査を行った理由は、日本語教師は外国人と「やさしい日本語」を使って話す機会も多く、難しい語彙についてやさしく言い換える作業に慣れていると思われる、そのような背景を持つ日本語教師が書き換えで悩む点は同じか、調査するためである。一方、大学生はそのような機会が少なく、まずどのように書き換えれば難しい語彙が「やさしい日本語」になるか悩むと推測される。自治体の書き換え担当者の多くが職員やボランティアである点を考えると、そのような背景の大学生がどのような部分で書き換えを困難と感じるか調査することは汎用性があると考えられる。それぞれの背景について述べるが、日本語教師で大分類を担当した 3 人は、それぞれ日本語教師歴が 10 年、6 年、1 年未満、細分類を担当した 3 人は 10 年超が 1 人、6 年が 2 人である。また、大学生で大分類を担当したのは 3 年生が 2 人と 1 年生が 1 人で、細分類を担当したのは、それぞれ 4 年生、3 年生、2 年生である。

#### 3.3 調査結果

##### 3.3.1 各グループの分類の特徴

各グループの分類の特徴を述べる。まず、下の表は、それぞれの語彙を分類したときの語彙数と一致率を示したものである。これは、2 人以上がものの名称（固有名詞）、専門用語ではないと判断した語彙に関する分類である。

表 3 各グループの分類の一致率（数字は語彙数）

分類した人数	3	2	2人以上	分かれたもの	合計
日本語教師（大分類）	30 (10.6%)	165 (58.1%)	195 (68.7%)	89 (31.3%)	284
大学生（大分類）	21 (7.8%)	142 (52.8%)	163 (60.6%)	106 (39.4%)	269
日本語教師（細分類）	11 (5.0%)	80 (36.2%)	91 (41.2%)	130 (58.8%)	221
大学生（細分類）	6 (2.9%)	45 (21.6%)	51 (24.5%)	157 (75.4%)	208

大分類は分類する項目が少ないため、2 人以上の項目の一致率が日本語教師で 7 割程度、大学生でも 6 割を越えた。項目が少ないことで、負担が少ない反面、分類が大まかなことから、細かい理由に関しては推測するしかない。一方で細分類は、分類する項目が多いた

め、判断が分かれてしまい、一致率は日本語教師では4割を越えたが、大学生では2割5分程度だった。細分類は細かく理由を項目分けしているため、書き換えでどのような点が難しいかが明確になる一方、個人差が大きく出ており、特に今回のように人数が少ない調査では、1人の判断が全体に与える影響も大きくなってしまった。

日本語教師と大学生を比較すると、大分類も細分類も日本語教師のほうが大学生より一致率が5～10%程度高くなっており、分類に対する意識が比較的近いことを示している。

次に、各項目の選択率について述べるが、以下は大分類のグループの選択率である。内訳は、同様に、1. ものの名称・専門用語なので説明の必要なし、2. 書き換えで問題が生じるため、行政に相談が必要、3. どこまで説明したらいいか、行政に相談が必要、4. 覚えたほうがいい、5. どうやって書き換えたらいいか、悩む、6. 書き換えられるである。

表4 大分類の選択率 (2人以上が「ものの名称・専門用語」ではないと判断した語彙)

	1	2	3	4	5	6	計
日本語教師・平均語彙数	2.3	17.3	44.7	52.3	80.0	87.3	284
日本語教師・選択率	0.8%	6.1%	15.7%	18.4%	28.2%	30.7%	
大学生・平均語彙数	0.3	16.0	25.7	79.7	80.7	66.7	269
大学生・選択率	0.1%	5.9%	9.6%	29.6%	30.0%	24.8%	

2. 書き換えで問題が生じるため、行政に相談が必要、5. どうやって書き換えたらいいか、悩む語彙に関しては、日本語教師も大学生も非常に近い値になっており、両者の分類の傾向が似ていることを示している。一方で、3. どこまで説明したらいいか、行政に相談が必要、4. 覚えたほうがいいに関しては、差が大きくなっている。この点から、日本語教師は語彙の書き換えで大きな問題は生じない語彙についても行政に確認を求めたいという意識が強いと推測される。また、大学生が4. 覚えたほうがいいと判断した語彙の一部を日本語教師では、6. 書き換えられると判断している可能性もある。

続いて、細分類のグループの選択率を示す。内訳は同様に、1. ものの名称 (固有名詞)、専門用語のため、説明なし、2. 誰を中心に考えるか、悩む、3. 差別的・問題がある表現が含まれる可能性がある、4. 印象・正確さが変わる、5. 長い説明が必要か、6. 例をどうするか、7. 直接的な表現を避けたい、8. 定義が曖昧、抽象的、9. 文脈による、10. 背景知識が必要 (日本の生活習慣や文化などを知らないと難しい)、11. 覚えた方がいい、12. 書き換えるかどうか (覚えた方がいいか) 悩む、13. その語彙自体難しいが、他の語彙に直せない・書き換えても難しい、14. 書き換えられるである。

表5 細分類の選択率 (2人以上がものの名称・専門用語ではないと判断した語彙)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	計
日数	18.7	6.7	2.0	14.7	15.7	12.7	0.3	18.7	12.3	1.3	33.7	26.7	32.7	25.0	221
%	8.4	3.0	0.9	6.6	7.1	5.7	0.2	8.4	5.6	0.6	15.2	12.1	14.8	11.3	
大	20.3	10.7	3.3	14.0	8.3	28.7	8.0	23.3	24.3	1.3	17.0	20.7	11.7	16.3	208
%	9.8	5.1	1.6	6.7	4.0	13.8	3.8	11.2	11.7	0.6	8.2	9.9	5.6	7.9	

日本語教師のほうが選択率が高いのは、11. 覚えた方がいい、13. その語彙自体難しいが他の語彙に直せない・書き換えても難しい、14. 書き換えられるで、日本語教師は、生活の中で外国人が覚えた方がいい語彙や語彙の書き換えを身につけている可能性が高い。一方で、逆の項目は、6. 例をどうするか、8. 定義が曖昧、抽象的、9. 文脈によるで、大学生が定義が曖昧な語彙や抽象語を、どのように書き換えたらいいか悩んだ様子が窺える。

3.3.2 書き換えで問題が生じる可能性があるので、行政の判断が必要な語彙

各グループで、書き換えで問題が生じる可能性があるので、行政の判断が必要と判断した語彙数の平均値は、日本語教師（大分類）41.3、大学生（大分類）40.0、日本語教師（細分類）35.0の値は非常に近いが、大学生（細分類）60.3が他のグループに比べ、値が大きい。これは大学生（細分類）の1人の選択率が平均値に大きく影響を与えた結果である。

次に、書き換えで問題が生じると判断した語彙の内訳を載せる。

表6 書き換えで問題が生じると判断した語彙（大分類）

日本語教師	2人	医療法、国際人道法、厚生年金、除籍謄本、モデル事業、若者自立塾、手当、給付、福祉文化、ひとり親世帯、障害者、認知症、心臓マッサージ、発しん、同意書、PL値
大学生	3人	障害者、テロ
	2人	ひとり親世帯、母子家庭、保護者、メタボリックシンドローム、エイズ、認知症、精神科、視覚障害、脱法、覚せい剤、暴力行為、虐待

表7 書き換えで問題が生じると判断した語彙（細分類）

日本語教師	誰を中心に考えるか	3人	交付、支給
		2人	協力者、給付、出産
	差別的・書き換えで問題が生じる表現が含まれる可能性がある	2人	母子家庭、障害者、認知症、精神科、視覚障害、ひとり親世帯
	印象・正確さが変わる	3人	減免、世帯
大学生	差別的・書き換えで問題が生じる表現が含まれる可能性がある	2人	障害者、ひとり親世帯、母子家庭、母子生活支援施設、エイズ、認知症、テロ、暴力、暴力行為、ドラッグ



どのグループにも出現するものとして、「障害者」「ひとり親世帯」「認知症」がある。また、3つのグループで出現したのものとして、「母子家庭」、2つのグループで出現したものとして、「給付」「エイズ」「視覚障害」「精神科」「テロ」「暴力行為」「虐待」がある。全体に共通するものとしては、母子・ひとり親に関するもの、障害に関するもの、病気に関するもの、また部分的に共通するものとして、金品の移動が伴う「給付」、犯罪・問題行動があがっている。

各グループの傾向を分析すると、日本語教師（大分類）では書き換えで内容や定義が変わってしまう点に気を配っており、日本語教師（細分類）がどのような場面でそれらの語彙が使われるかを推測して書き換え例を考え、それを確認している様子が窺える。大学生（細分類）は、グループのうち、2人がこの項目に当てはまると判断した語彙がほとんどなく、大学生にはどのような語彙がそれらに当てはまるか、判断が困難だった可能性も高い

### 3.3.3 覚えたほうがいと判断した語彙

各グループで、覚えたほうがいと判断された語彙数の平均値は、日本語教師（大分類）で105.7、大学生（大分類）で131.3、日本語教師（細分類）で50.3、大学生（細分類）40.0と、大分類と細分類で大きな差が出た。大分類と細分類では、チャートの順序に違いがあり、細分類には「書き換えるかどうか（覚えたほうがいと）悩む」があることも影響していると考えられる。また調査依頼の際に、「ものの名称・専門用語」については、必要なものだけ説明を加えると説明したが、大分類グループは、全ての語彙に説明を加えようとしており、一方で細分類グループは説明がないものが多いという点も影響したと考えられる。

次に、各グループで被験者が覚えたほうがいと判断した語彙の内訳について述べる。

表8 覚えたほうがいと判断した語彙（ものの名称・専門用語含む）

日(大)	3人	ぼうこう、乳房、前立腺、津波、台風、アレルギー、エイズ、マラリア、ワクチン、ウイルス、インストール、インターネット、ウェブサイト、ダウンロード、パスワード、ホームページ、メール、リンク、イベント、キャンセル、コンビニ、サービス、マニュアル、リサイクル、リフレッシュ、ショッピングカート、懐中電灯、ガスボンベ、充電器、チューブ、ろうそく、リュックサック (32)
大(大)	3人	警察庁、消防署、登録証、目的、情報、構成、利益、設備、施設、墓地、給食、津波、噴火、アレルギー、インターネット、ウェブサイト、ダウンロード、ホームページ、メール、サービス、家具、タイル、みりん、ねじ、充電器、担架、ろうそく、リュックサック (28)
日(細)	3人	通帳、分(7月分)、行動、登録(4)
	2人	火事、水道、口座、契約、台風、地震、洪水、検査、対応、保護者、団体、状況、担当、資格、責任、条件、一部、期間、調査、証明、手続き、治療、被害、状態、情報、制度、コンビニ、サービス、キャンセル (29)
大(細)	2人	免許証、地震、ガスボンベ (3)

「覚えたほうがいい」語彙のグループ間の大きな違いとして、日本語教師（細分類）では、公的文書で頻出する語や手続きに必要となる語、抽象語が多く選ばれており、一方で、日本語教師（大分類）や大学生（大分類）では、インターネット関連や災害時に役に立つものなど、より生活に密着した語彙を選んでいる点は興味深い。今後、公的文書でよく使われるという点、生活で必要になるという点の両方の観点から、外国人住民にとって覚えたほうがいい語彙を選定する必要があるだろう。また、全員が「覚えたほうがいい」と判断した語彙は大学生より日本語教師のほうが多く、日本語教師は、普段外国人と「やさしい日本語」でコミュニケーションをとる中で、難しい言葉をやさしく言い換える力や外国人の使用頻度が高い語彙を身につけていると考えられる。

### 3.4 中分類の提案

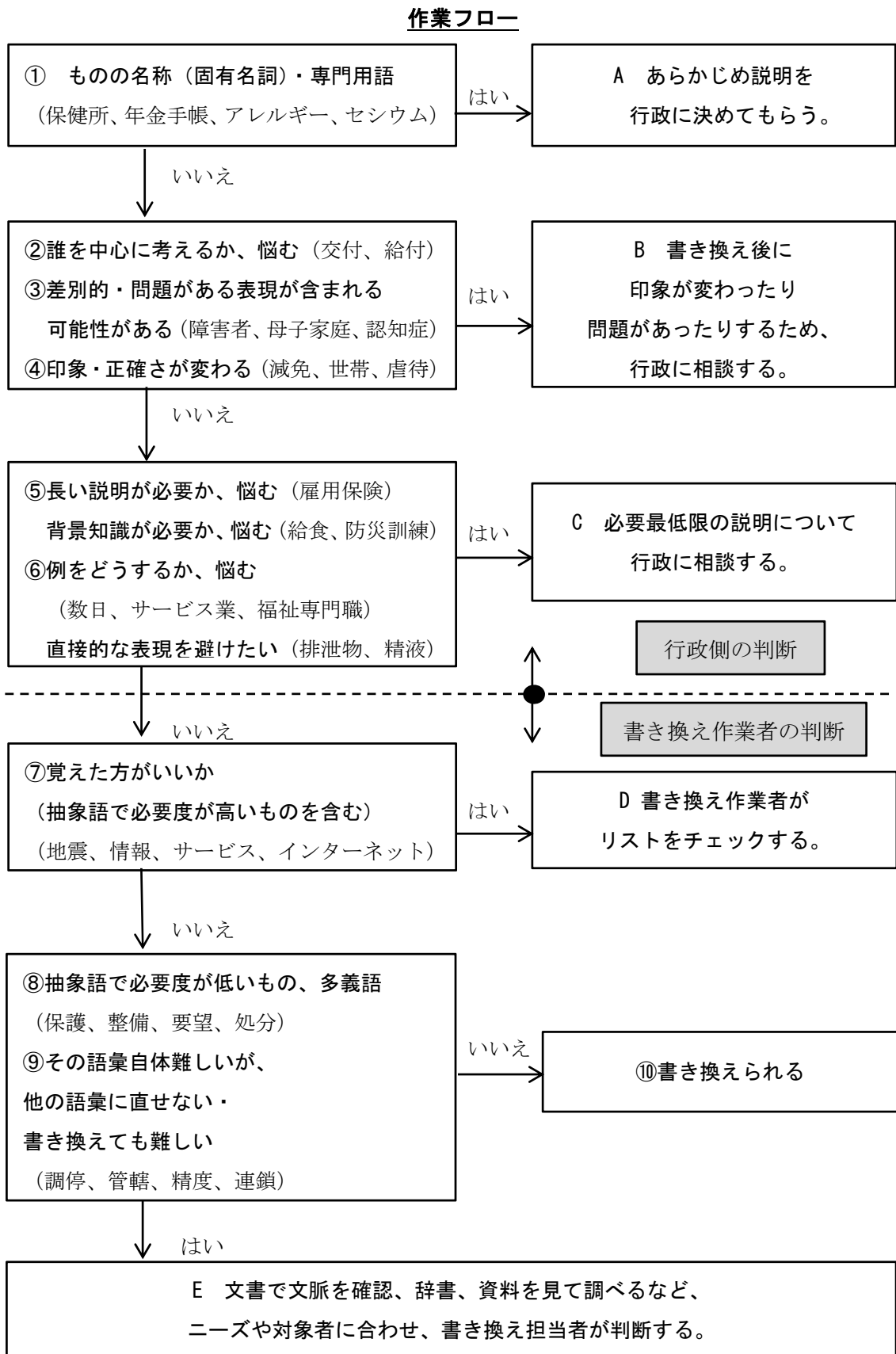
ここまでの分析から得られた結果から、大分類では一致率は高いが分類が大まかであり、細分類では細かい傾向が分かるが一致率が低いという問題点を踏まえ、分類にばらつきが出た組み合わせを修正し、新たに10項目の中分類を設け、作業の流れをまとめた作業フローを作成した。それが以下のものである。

#### 提案する中分類

1. ものの名称（固有名詞）、専門用語
2. 誰を中心に考えるか、悩む語彙
3. 差別的・問題がある表現が含まれる可能性がある語彙
4. 印象・正確さが変わる語彙
5. 長い説明が必要か、悩む語彙  
背景知識が必要な（日本の生活習慣や文化などを知らないとき難しい）語彙
6. 例をどうするか、悩む語彙、直接的な表現を避けたい語彙
7. 覚えたほうがいい（抽象語で必要度が高いものを含む）語彙
8. 抽象語で必要度が低い語彙、多義語
9. その語彙自体難しいが、他の語彙に直せない・書き換えても難しい語彙
10. 書き換えられる語彙

続いて、作業フローを掲載する。それぞれの項目の後ろの（ ）には、抽出した語彙の中から、あてはまる語彙の例を記述する。

表9 書き換えチャート



#### 4 まとめ

本研究では、書き換え困難な語彙 500 を抽出し、どのような理由で書き換えが困難なのかを分析し、新たに中分類を設け、作業フローを作成した。しかし、これらの分類に関しては「覚えたほうがいい」語彙の選定や抽象語の書き換え方針の決定が伴うため、今後、他の公的文書も参考にし、それらを整備していく必要がある。本研究はあくまで、今後、6,000~10,000 の公的文書基本語彙を決め、行政との書き換え方針を検討する上でのたたき台に過ぎず、今後それらの研究や検討を進め、書き換え基準を決め、長期的に、そして継続的に研究を進めていかなければならない。

#### 参考文献

- ・庵功雄 (2009) 「地域日本語教育と日本語教育文法—やさしい日本語という観点から」『人文・自然研究』3, 一橋大学
- ・庵功雄監修 (2010/2011) 『にほんごこれだけ! 1・2』ココ出版
- ・庵功雄・岩田一成・森篤嗣編 (2011) 「「やさしい日本語」を用いた公文書の書き換え—多文化共生と日本語教育文法の接点を求めて—」『人文・自然研究』5, pp.115-139, 一橋大学
- ・庵功雄・尾崎明人・岩田一成・森篤嗣・杵真奈見・山本和英・三上善貴 (2011) 「「やさしい日本語」研究の展開」『やさしい日本語を用いたユニバーサルコミュニケーション社会実現のための総合的研究』平成 22~25 年度文部科学省科学研究費補助金 (基盤研究 (A)) 課題番号 22242013) (中間報告)
- ・庵功雄・イヨンスク・森篤嗣編 (2013) 『「やさしい日本語」は何を目指すか—多文化共生社会を実現するために—』ココ出版
- ・国際交流基金・日本国際教育支援協会 (2002) 『日本語能力試験出題基準 (改訂版)』凡人社
- ・日本語読解学習支援システム「リーディングチュー太」, <http://language.tiu.ac.jp>